

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立南幼稚園

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 近年、様々な自然災害が生じている。幼稚園は、幼児が初めて経験する集団生活である。幼児が自然災害について知り、災害時の安全な行動の仕方を身に付けていくことは、幼児が安全で安心な生活を送るために必要なことであると考えます。また、近年のコロナ禍により、生活の中で、幼児に必要な直接体験が制限されがちな状況もある。怪我や事故につながる危険なことに対して、幼児自身が見通しをもち、安全な遊び方を考え、行動する力も必要である。幼児が、安全な生活のために必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動することができるように教育活動を進めていきたい。
- 幼児の入園までの人との関わりの経験の傾向として、次のような姿が見られる。
 - ・複数の区から広範囲に渡って通園してきており、生活する地域に公園も少なく、家庭で過ごしてきた幼児が多い。入園前に同年齢くらいの幼児との関わりや地域とのつながりの経験が少ない。
 - ・外国につながる幼児が多く、日本語でのコミュニケーションの経験が少ない、或いは全く無い幼児も多数在籍している。そこで、いろいろな人と関わる豊かな体験ができるような園生活や活動を工夫し、幼児が互いの気持ちや思い、考えなどに気付き、認め合う心と自己肯定感を育むための教育活動を行い、幼児それぞれの個性や、様々な文化などを尊重し、多様性を受け入れながら人と関わっていく力の育成を図りたい。
- 都会の中心での生活により、特に伸び伸びと体を動かして遊ぶ体験や自然に関わる体験が希薄になってきている。本園の特色である、広大なグラウンドや、畑や様々な種類の果樹などの豊かな自然環境を活用し、友達と一緒に伸び伸びと遊べるような活動内容、四季折々の木々の変化や実りを味わうことができる環境の活用の仕方、植物や生き物に触れ、育てる活動について工夫し、主体的に活動する喜び、命の大切さを感じることができるよう教育活動を行いたい。
- よりよい教育活動を進めていくにあたって、教職員自身の資質向上も大切である。学びを支える幼稚園の人的環境として、専門的な知識を学ぶ機会をもち、情報交換しながら幼稚園全体の教育力を高めていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

「安全な生活のために必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する力を育む」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて、次の項目について肯定的な回答を85%以上にする。

- ・幼稚園は、様々な災害に備え、命を守る習慣や行動を身に付ける保育内容の工夫をしている。
- ・幼稚園は、子どもが安全に過ごす意識がもてるようにしている。
- ・子どもは、自分の命を守る意識や行動が身に付いてきている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「互いの気持ちや思い、考えなどに気付き、認め合い、自己肯定感を味わえるようにする」
「それぞれの個性や、様々な文化などを尊重し、多様性を受け入れながら人と関わっていく力を育む」「主体的に活動する中で、自ら体を動かして遊ぼうとする意欲や、植物や生き物との関わりを通して命を大切にすることを育む」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて、次の項目について肯定的な回答を85%以上にする。

- ・幼稚園は、子どもが様々な人と交流する体験を行っている。
- ・子どもは、いろいろな人（クラスの友達、他のクラスの友達、学校や地域の人）との関わりを楽しんでいる。
- ・幼稚園は、子どもが体を動かして遊ぶ活動の工夫をしている。
- ・子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである。
- ・幼稚園は、植物や生き物に触れる活動を工夫している。
- ・子どもは、植物や生き物との触れ合いを楽しみ、命の大切さなどにも気付いてきている。

【学びを支える教育環境の充実】

「教職員の専門的な知識を高め、資質向上を図る」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて、次の項目について肯定的な回答を85%以上にする。

- ・幼稚園は、幼児期に大切な様々な体験ができる保育を行っている。
- ・子どもは、安心感をもって生活し、幼稚園が好きである。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

「安全な生活のために必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する力を育む」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて、次の項目について肯定的な回答（そう思う、ややそう思う）を85%以上にする。

- ・幼稚園は、様々な災害に備え、命を守る習慣や行動を身に付ける保育内容の工夫をしている。
- ・幼稚園は、子どもが安全に過ごす意識がもてるようにしている。
- ・子どもは、自分の命を守る意識や行動が身に付いてきている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「互いの気持ちや思い、考えなどに気付き、認め合い、自己肯定感を味わえるようにする」
「それぞれの個性や、様々な文化などを尊重し、多様性を受け入れながら人と関わっていく力を育む」「主体的に活動する中で、自ら体を動かして遊ぼうとする意欲や、植物や生き物との関わりを通して命を大切にすることを育む」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて、次の項目について肯定的な回答（そう思う、ややそう思う）を85%以上にする。

- ・幼稚園は、子どもが様々な人と交流する体験を行っている。
- ・子どもは、いろいろな人（クラスの友達、他のクラスの友達、学校や地域の人）との関わりを楽しんでいる。
- ・幼稚園は、子どもが体を動かして遊ぶ活動の工夫をしている。
- ・子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである。
- ・幼稚園は、植物や生き物に触れる活動を工夫している。
- ・子どもは、植物や生き物との触れ合いを楽しみ、命の大切さなどにも気付いてきている。

【学びを支える教育環境の充実】

「教職員の専門的な知識を高め、資質向上を図る」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて、次の項目について肯定的な回答（そう思う、ややそう思う）を85%以上にする。

- ・ 幼稚園は、幼児期に大切な様々な体験ができる保育を行っている。
- ・ 子どもは、安心感をもって生活し、幼稚園が好きである。

3 本年度の自己評価結果の総括

<保護者アンケート結果について>

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 幼稚園は、様々な災害に備え命を守る習慣や行動を身に付ける保育内容の工夫をしている
.....肯定的回答 91%（目標 85%）
- ・ 幼稚園は、子どもが安全に過ごす意識がもてるようにしている
.....肯定的回答 93%（目標 85%）
- ・ 子どもは、自分の命を守る意識や行動が身に付いてきている
.....肯定的回答 93%（目標 85%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 幼稚園は、子どもが様々な人と交流する体験を行っている
.....肯定的回答 91%（目標 85%）
- ・ 子どもは、いろいろな人（クラスの友達、他のクラスの友達、学校や地域の人）との関わりを楽しんでいる
.....肯定的回答 93%（目標 85%）
- ・ 幼稚園は、子どもが体を動かして遊ぶ活動の工夫をしている
.....肯定的回答 93%（目標 85%）
- ・ 子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである
.....肯定的回答 93%（目標 85%）
- ・ 幼稚園は、植物や生き物に触れる活動を工夫している
.....肯定的回答 93%（目標 85%）
- ・ 子どもは、植物や生き物との触れ合いを楽しみ、命の大切さなどにも気付いてきている
.....肯定的回答 89%（目標 85%）

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 幼稚園は、幼児期に大切な様々な体験ができる保育を行っている
.....肯定的回答 93%（目標 85%）
- ・ 子どもは、安心感をもって生活し、幼稚園が好きである
.....肯定的回答 93%（目標 85%）

全てのアンケート結果において、肯定的な回答を85%以上にするという目標を達成した。

大阪市立南幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>「安全な生活のために必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する力を育む」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて、次の項目について肯定的な回答（そう思う、ややそう思う）を85%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は、様々な災害に備え、命を守る習慣や行動を身に付ける保育内容の工夫をしている。 ・幼稚園は、子どもが安全に過ごす意識がもてるようにしている。 ・子どもは、自分の命を守る意識や行動が身に付いてきている。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-5、防災・減災教育の推進】</p> <p>様々な災害に備え、命を守る行動や習慣を身に付ける。</p> <p style="text-align: right;">(安全・安心な教育環境の実現)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する指導の年間計画を立てる。 ・月に1回、自分の命を守る行動を身に付け、習慣付くよう、発達や実態に応じた指導の内容を工夫し実践する。 	
<p>取組内容②【1-6、安全教育の推進】</p> <p>安全に過ごす意識をもち、見通しをもって生活したり遊んだりできるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(安全・安心な教育環境の実現)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回、週案打ち合わせを行い、幼児の実態から安全面の配慮や指導内容、環境整備について話し合い、実施する。 ・自分の体や命の大切さに気付くような指導内容を工夫する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><保護者アンケート結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は、様々な災害に備え、命を守る習慣や行動を身に付ける保育内容の工夫をしている ・・・・・・・・・・肯定的回答 91%（目標 85%） ・幼稚園は、子どもが安全に過ごす意識がもてるようにしている ・・・・・・・・・・肯定的回答 93%（目標 85%） ・子どもは、自分の命を守る意識や行動が身に付いてきている ・・・・・・・・・・肯定的回答 93%（目標 85%） 	

取組内容①

- ・年間計画を立て毎月実施した。

月	想定	ねらい ○全学年のねらい・内容 【】各学年の内容	実際の指導及び幼児の姿
4月	火災	○火災の際の避難方法を知る。 ・非常ベルの音を聞き、非常ベルの役割を知る。 【3歳児・4歳児新入園児】 ・落ち着いて非常ベルの音を聞き、役割を知る。 【4歳児進級児・5歳児】 ・安全な避難方法や場所を再確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練がどのような活動か、どんなときに避難する必要があるかを、イラスト（地震・火災・先生の近くに集まるなど）を用いたことで、分かりやすく知らせることができた。 ・リズム室に全員集まり、話や非常ベルの音を座って聞いたことで落ち着いた雰囲気の中、新入園児も怖がらずに取り組むことができた。
5月	火災（消防署立ち合い訓練）	○火災の際の避難方法を知る。 ・合図や指示をよく聞き、落ち着いて避難する。 【3歳児】 ・合図や放送を聞いて、教師と一緒に避難する。 【4歳児】 ・合図や放送を聞いて、指示に従って避難する。 【5歳児】 ・合図や放送を静かに聞いて、避難をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、避難方法や避難の際の約束を再確認したことで、落ち着いて行動することができた。ハンカチを忘れた子どもがいたため、ハンカチで鼻や口を覆う理由を知らせ、非常時に必要であることを再確認した。
6月	地震	○地震の際の避難方法を知る。 ・指示をよく聞き、落ち着いて避難する。 ・保育室の安全な場所に避難し、ヘルメットを被る。 【3歳児】 ・避難方法を知る。 【4歳児】 ・避難方法を思い出し、教師の話聞いて避難する。 【5歳児】 ・避難方法を思い出し、どのような行動をするか自分で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児は、事前に机の下でダンゴムシポーズとヘルメットを被ることを練習した。 ・4歳児は、担任が他クラスに地震だと伝達する際、数人が担任についてきてしまった。担任以外でも、大人のそばに集まったら動かないことを知らせておく必要があった。 ・5歳児は、ヘルメットを配る際に子どもがヘルメットの入れ物の前に座り込んでしまい、混雑した。ヘルメットの入れ物の前には座らないよう知らせたり、教師が動線を確認したりしていく。

7月	不審者 (引き渡し訓練)	<p>○不審者侵入の際の避難方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難方法や場所の確認をする。 ・合図や指示をよく聞き、落ち着いて避難する。 <p>【3歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難方法を知る。 <p>【4歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難方法を思い出し、教師の話聞いて避難する。 <p>【5歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話を手静かに聞き、どのような行動をするのかを自分で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児は職員室の書棚前に隠れたが、書棚にもたれる子どもが多く、物音がしていた。できるだけ音が鳴らないよう、意識をもたせる。 ・数人声を出したり、動いたりする子どもがいた。不審者に気付かれないよう、行動を考えたり、「しゃべらない」の約束を守る大切さを知らせたりしていく必要がある。 ・引き渡し訓練では、保護者への引き渡しをスムーズに行うことができた。降園時間に合わせていたため、次回は降園時間と合わせずに引き渡し訓練を行う。
	地震 (預かり保育)	<p>○預かり保育の際の地震の避難方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示をよく聞き、落ち着いて避難する。 ・保育室の安全な場所に避難し、ヘルメットを被る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、教師の話聞き、玄関から園舎横を通り落ち着いて避難することができた。
9月	地震・津波 (引き渡し訓練)	<p>○地震・津波の際の避難方法を知る。</p> <p>【3歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南船場会館への避難方法を知る。 <p>【4歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南船場会館への避難方法を知り、教師の話聞いて避難する。 <p>【5歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南船場会館への避難方法を知り、どのような行動をするか自分で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に南船場会館に避難することを伝えていたが、実際に訓練が始まると不安感が強くなる子どももいたため、今回経験することができてよかった。 ・5歳児は事前にヘルメットを受け取る時に座り込まないように知らせておいたことで、スムーズにヘルメットを受け取り移動することができた。 ・南船場会館での引き渡し訓練は、今年度新たな取組として行った。保護者にも実際の避難場所を確認してもらうことができた。 ・保護者への地震・津波発生時の連絡を降園時間よりも前に行ったことで、実際に迎えに来るまでの時間を確認することができた。

10.月	火災	<p>○火災の際の避難時の約束を守り、避難する。</p> <p>【3歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難の約束を思い出し、教師や友達と一緒に避難する。 <p>【4歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難の約束を思い出し、約束を守って行動する。 <p>【5歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難の約束を考えながら、適切に行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の降園連絡で、避難の際にハンカチで鼻と口を覆うことを保護者にも知らせ、毎日ハンカチを持ってくることを改めて啓発した。それでも当日、ハンカチを持っていない子どもが数人いたので、ハンカチを持つことが習慣づくよう、繰り返し知らせていきたい。
11.月	防犯 (無予告)	<p>○落ち着いて教師の指示を聞き、機敏に行動する。(無予告)</p> <p>【3歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入時の合図を思い出し、教師の話を聞いて落ち着いて避難する。 <p>【4歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入時の合図や避難方法を思い出し、指示に従って速やかに行動する。 <p>【5歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入時の合図や約束を思い出し、自分の身を守ることが分かって、速やかに避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスが園庭で遊んでいる際に不審者を確認するという想定で訓練を行った。無予告で行ったが、教師の声かけで避難の必要性に気づき、教師の誘導に従って避難する姿が見られた。また、避難をする際に個別に声かけが必要な子どもの実態を把握することができた。
12.月	地震・津波 (無予告)	<p>○地震及び津波の際の避難方法を知る。(無予告)</p> <p>【3歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話を聞いて、教師や友達と一緒に落ち着いて避難する。 <p>【4歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震による津波発生時の避難方法を知り、指示に従って速やかに行動する。 <p>【5歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな揺れが続いているときの自身の身の守り方を思い出し、指示を聞いて自分で考えて行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラス保育室で活動している際に地震が発生するという想定で訓練を行った。これまで地震の訓練を積み重ねてきたことで、机の下や椅子の下など、自分の身を守る場所を考え避難することができた。 ・保育室で上靴を脱いで遊んでいるときは、どうすればよいか分からなかったと子ども自身が気づき、話し合いで伝える姿が見られた。地震の際は床に危険なものが落ちている可能性を知らせ、避難のときには上靴を履くこと、いつでもすぐに上靴が履けるように並べて近くに置いておくことを共有することができた。 ・3歳児は手に持っていた遊具を、いつも置いている場所に置いてから身を守る姿が見られた。緊急時は遊具よりも自分の命が大切であることを再確認し、その場に置いて避難することを知らせた。

1月	地震・津波 (無予告)	<p>○落ち着いて教師の指示を聞き、機敏に行動する。(無予告)</p> <p>【3歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話聞いて、教師や友達と落ち着いて避難する。 <p>【4歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波の際の約束や避難方法を思い出し、指示に従って速やかに行動する。 <p>【5歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波の際の約束や避難方法や自分の身の守り方を思い出し、指示を聞いて自分で考えて速やかに避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭で遊んでいるときに、地震が発生し、津波警報が発令されるという想定で訓練を行った。教師の声かけで、近くにいる教師のそばに集まることができていた。 ・南船場会館への避難も行った。靴を脱いだり履いたりする際に、座って行う子どもの姿が見られたため、日頃から立って靴を脱いだり履いたりすることができるように取り組んでいき、緊急時もスムーズに避難できるようにしていく。
2月	地震・津波 (無予告)	<p>○火災の際の合図や放送を落ち着いて聞き、避難方法や約束を守って行動する。(無予告)</p> <p>【3歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの教師の話聞き、落ち着いて避難する。 <p>【4歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送や近くの教師の話を静かに聞き、指示に従って速やかに避難する。 <p>【5歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場所においても合図や放送を静かに聞き、避難方法や約束を思い出しながら速やかに避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラス保育室で活動している際に、職員室より火災が起きた想定で訓練を行った。それぞれの子どもが様々な遊びをしており、中にははさみを使っていたり、靴を脱いで遊んでいたりする子どももいた。火災の知らせがあると、遊びをすぐに止め、手に持っている物を置いてから教師のもとに集まることができていた。また、3歳児は、上靴を脱ぐ場所を決めているため、スムーズに上靴を履くことができていた。一方で、4、5歳児には、逃げる際に靴を履いていない子どもがいたため、改めて逃げるための足を守ることの大切さを知らせた。教職員も、全員が靴を履けているか、教職員間で連携を図りながら確認するようにすることの必要性を知った。

＜取組内容①のまとめ＞

- ・前年度年1回であった引き渡し訓練を年2回にした。幼稚園のリズム室での引き渡し訓練に加え、津波の際の避難場所である南船場会館での引き渡し訓練も実施することで、津波の際の避難場所を保護者に周知することができた。また、無予告での避難訓練を「火災」「地震・津波」「不審者」全てで実施することができた。前年度よりもより様々な状況での避難訓練が実施できるように、「保育室での活動」「園庭での活動」など、様々な場面を想定して実施し、より臨機応変な訓練を実施することができた。教師自身も無予告で訓練を行った際の子どもたちの動きを把握することができ、より実際の避難を想定した訓練を行うことができた。

取組内容②

○幼児の実態から、以下のように安全に対する指導と環境整備を行った。

<1 学期>

【総合遊具の使い方について】

- ・年度当初に全クラスで園庭に集まり、総合遊具の安全な使い方を確認した。教師が実際に遊具を使いながら安全な行動を示し、使い方が目で見て分かるようにしたことで、どの学年でも理解することができていた。

【園内での約束について】

- ・3歳児、4歳児は新入園児がいることから、クラス全員で園内を探検し、危険なため入ってはいけない部屋、教師に伝えてから行く場所などの確認をした。

【グラウンドでの約束について】

- ・全クラスで、グラウンドを回りながら、北駐輪場には子どもだけで入らないことや、スケーターなどの乗り物に乗ったまま土山に上らないなどの約束を確認した。

【はさみの扱い方について】

- ・5歳児は、はさみを使用する際の約束（座って使う、キャップをして持ち運ぶ、隣の人と離れて使う など）をクラスで再確認し、共通認識をもった。遊びの中で危険な姿を捉え、随時知らせていくことで、身に付いてきており、子ども同士で教え合う姿も見られた。
- ・4歳児は、教師が見守る中で、少人数ずつはさみを使用することで、個別に使い方や約束を知らせた。

【プールについて】

- ・プール開きでは、「プールサイドは走らない」「友達を押さない」などの約束を、掲示物を使って視覚的に分かるよう知らせた。併せて、プールサイドで実際の場所を見せながら話をしたことで、プール遊びには危険が伴うことをより強く意識し、約束を守ろうとする姿につながった。
- ・水着を脱ぐ場所は、テントやシートで目隠しをした。5歳児は巻きタオルを使用し、体を隠しながら脱ぎ着ができるように方法を知らせた。また、椅子の向きを工夫したり、衝立を置いたりして、他の子どもの着替えが視界に入りにくいようにした。自分の体や友達の体（特にプライベートパーツ）を大切に作る気持ちをもち、素早く着替えたり、友達の着替えを見ないようにしたりする姿につながった。

【交通安全指導について】

- ・中央区役所の方による交通安全指導があった。横断歩道や信号の安全な渡り方を教えていただいた。常に意識して渡ることができるように振り返りの話し合いで共通理解した。

<2 学期、3 学期>

【園庭の約束について】

- ・3歳児は、運動会後は以前に比べて様々な運動遊具を使って遊んだり、挑戦したり、多人数で集って遊ぶようになったため、危険な遊び方が見られたときは、その都度クラスで確認をするようにした。かけっこをしているときは前を横切らない、雲梯を使用するときは、教師に知らせる（教師がそばで見守る）、スケーターはマット（雲梯の下や滑り台の降り口など）のところは通らない、鬼遊びで滑り台は使用しない、などを再度確認した。

【園外保育での過ごし方について】

- ・園外保育の前日、園外保育時の並び方で園内を歩き、交通ルールや電車の乗り方を知ら

せた。5歳児は、3歳児と手をつないで歩くことで、責任感をもち、より安全への意識が高まるようにした。園外保育当日は、交通ルールを守って歩こうとする姿が見られた。

【はさみの扱い方について】

- ・4歳児では、自分の使いたいときに安全にはさみを使うことができるように椅子に座って使うことや、はさみは必ず机や台の上に置くこと、片付けるときは最初にはさみを片付けることを繰り返し知らせた。自分自身ではさみを使うときの約束を守りながら使うようになった。
- ・3歳児は、教師や保育参加の保護者が見守る中、はさみを使用することで、個別に使い方や約束を知らせることができた。

【こまやけん玉の遊び方について】

- ・5歳児は、紐で回すこまやけん玉の安全な遊び方(こま…投げたときに顔に当たらないように立って遊ぶ、友達と距離をとって遊ぶ、決められたスペースで回す・けん玉…友達と距離をとって遊ぶ、振り回さない など)をクラス全体で共通理解してから遊んだことで、子どもたち同士でも危険な場面を知らせ合う姿が見られた。

○自分の体や命の大切さに気付くような指導を以下のように取り組んだ。

<1学期>

【健康診断について】

- ・各健康診断で体のどこを診てもらうのか、どんな器具を使うのか、検診の受け方などを知らせ、自分の体や健康に関心をもてるように事前指導を行った。また、検診を安心して受けられるように、実際に使う器具を触ったり、模擬体験したりして不安を減らすようにしたことで、当日は落ち着いて検診に臨むことができた。

【プライベートパーツについて】

- ・自分の体にプライベートパーツ（自分だけの大切なところ）があることを知らせ、体の約束として「自分のプライベートパーツを見せたり、触らせたりしないこと」「友達のプライベートパーツを見ない、触らないこと」を確認した。トイレや着替えの際、自分のプライベートパーツが見えないように、どのように気を付ければよいかを考えさせ、生活の中で意識できるようにした。指導後、素早く着替えたり、着替える順番を工夫したりしている姿が見られた。

【熱中症について】

- ・熱中症から命を守るように、デジタル教材や紙芝居を活用して知らせた。熱中症を予防するために気を付けることや体調が悪いときには近くの大人に知らせることが大切であると確認した。また友達がしんどそうなときには、友達の代わりに大人に知らせることで、友達の命を守ることにつながると伝えた。指導後には、水分補給をこまめにしたり、帽子を忘れずに着用したりするなどより意識する姿が見られた。

【赤ちゃんの誕生について】

- ・教師が出産のため休みに入る際に、出産する教師からお腹の中の赤ちゃんの様子について話を聞いた。全学年で「先生と赤ちゃんががんばれの会」を開くことにより、赤ちゃんや出産する教師を大切に思う気持ちにつながった。4歳児、5歳児では「おへそのあな」という絵本を読むことで、お腹の中の赤ちゃんに思いを寄せたり、自分が赤ちゃんだったときもたくさんの人が産まれることを楽しみに待っていたことを知ったりする機会となり、自分の命の大切さにもふれることができた。

<2学期、3学期>

【言葉の選び方について】

- ・絵本『ふわふわとちくちく』を読み、相手に伝えるときの言葉の選び方について知らせた。相手の気持ちを考えて言葉を選ぶことが、相手を大切にすることにつながり、自分の気持ちをどのように伝えようか友達と一緒に考えることにつながった。

【プライベートパーツについて】

- ・「いいタッチ」と「よくないタッチ」について考える機会をもった。自分にとってよいタッチであっても、友達の感じ方は違うこともあることや自分にとって不快に感じるときは「やめて」と言ってよいことを伝えた。また、友達のプライベートパーツはふざけて触ってはいけないことを再度知らせた。自分や友達の体や心を守るということについて再確認できた。

<取組内容②のまとめ>

- ・安全に対する指導と環境整備では、子どもの実態、発達、活動の内容に応じて継続的に指導を行った。一度安全について知らせた後も繰り返し知らせていくことで少しずつ習慣として身に付くことができた。また、はさみの扱いでは、3歳児は教師の見守りのもと、約束を何回も丁寧に知らせることで少しずつ約束が分かり、4歳児、5歳児では自分で約束を思い出し、自分の使いたいときに安全に使うという発達に応じた安全への指導が必要であった。今後も子どもの実態、発達、活動の内容に応じて安全に対する指導と環境整備を教師間でも共有し、継続的に取組を進めていきたい。
- ・自分の体や命の大切さに気付くような指導については、月1回の保健指導で養護教諭が継続的に指導を行ったり、各クラスでも子どもの実態から命を大切にすることにつながる題材を考え指導を行ったりした。話を聞いた後には、日々の生活の中で思い出し、手洗い・うがいを丁寧にしたり、背筋をまっすぐ伸ばして話を聞いたり、弁当を残さず食べようとしたり、自分の体を大切にすることをもって生活する姿が見られるようになった。今後も自分の体や命の大切さに気付くためにはどのような指導が実践できるか、教職員で話し合いながら取組を進めていきたい。

次年度への改善点

<取組内容①について>

- ・「自分の命を守る意識や行動が身に付いてきている」の項目での保護者の評価は「ややそう思う」の回答が多数あった。アンケート結果から、「咄嗟の判断が難しいと感じる」という意見が多数あった。日々、避難訓練や安全教育を積み重ねることで、自ら安全に過ごす意識を身に付けられるように今後も保育内容を工夫する必要があると感じた。
- ・次年度以降も事前に予告する避難訓練で丁寧に避難の仕方を知らせ、その後無予告の避難訓練を積み重ねて、様々な災害に備え、命を守る習慣や行動を身に付ける取組に努める。

大阪市立南幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>「互いの気持ちや思い、考えなどに気付き、認め合い、自己肯定感を味わえるようにする」「それぞれの個性や、様々な文化などを尊重し、多様性を受け入れながら人と関わっていく力を育む」「主体的に活動する中で、自ら体を動かして遊ぼうとする意欲や、植物や生き物との関わりを通して命を大切にすることを育む」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて次の項目について肯定的な回答（そう思う、ややそう思う）を85%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は、子どもが様々な人と交流する体験を行っている。 ・子どもは、いろいろな人（クラスの友達、他のクラスの友達、学校や地域の人）との関わりを楽しんでいる。 ・幼稚園は、子どもが体を動かして遊ぶ活動の工夫をしている。 ・子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである。 ・幼稚園は、植物や生き物に触れる活動を工夫している。 ・子どもは、植物や生き物との触れ合いを楽しみ、命の大切さなどにも気付いてきている。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【3-1、就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進】</p> <p>多様な体験を通して、様々な人との関わりを楽しみ、親しみをもつ。</p> <p style="text-align: right;">(幼児教育の推進と質の向上)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流活動の年間計画を立て、年に5回以上実施する。 ・学期に1回以上、ふれあい遊びを計画し、実施する。 ・学期に1回以上、いろいろな文化に親しみがもてるような保育内容を工夫する。 	A
<p>取組内容②【3-1、就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進】</p> <p>様々な活動や遊びの中で、意欲的に体を動かして遊ぶようにする。</p> <p style="text-align: right;">(幼児教育の推進と質の向上)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回、週案打ち合わせ時に、就学前教育カリキュラムを活用し、幼児の興味や関心、実態を捉え、体を動かして遊びたいような環境構成や内容の工夫及び実践、評価を行う。 	A
<p>取組内容③【5-2、健康教育・食育の推進】</p> <p>四季折々の樹木や、種や苗から育てる植物、生き物に、興味・関心をもって関わる。</p> <p style="text-align: right;">(健やかな体の育成)</p>	B

指標

- ・栽培の年間計画を作成し、実施する。
- ・学期に1回以上、身近な生き物や植物に親しみ、大切にすることを覚えるように保育内容を考え、実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<保護者アンケートの結果>

- ・幼稚園は、子どもが様々な人と交流する体験を行っている……………肯定的回答 91% (目標 85%)
- ・子どもは、いろいろな人(クラスの友達、他のクラスの友達、学校や地域の人)との関わりを楽しんでいる……………肯定的回答 93% (目標 85%)
- ・幼稚園は、子どもが体を動かして遊ぶ活動の工夫をしている……………肯定的回答 93% (目標 85%)
- ・子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである……………肯定的回答 93% (目標 85%)
- ・幼稚園は、植物や生き物に触れる活動を工夫している……………肯定的回答 93% (目標 85%)
- ・子どもは、植物や生き物との触れ合いを楽しみ、命の大切さなどにも気付いてきている……………肯定的回答 89% (目標 85%)

取組内容①

学校や地域の人々との交流

<年間計画>

5月	南船場ウェルカムデイ	・南船場会館にて、地域の方とのふれあい
6月	保育実習 絵本の読み聞かせ カプラ遊び ひよこランド	・相愛高校の保育実習2年生、3年生との交流 ・島之内図書館のボランティアによる絵本の読み聞かせ ・カプラ遊びでの専門の先生とのふれあい ・未就園児とのふれあい
7月	南中学校職場体験 (2年生) 太鼓指導	・南中学校(2年生)との交流 ・太鼓指導での専門の先生との交流
9月	太鼓指導 陶芸教室 ひよこランド	・太鼓指導での専門の先生との交流 ・陶芸教室での専門の先生や地域の方との交流 ・未就園児とのふれあい
10月	ひよこランド 種花事業 交通安全指導 相愛高校との交流	・未就園児とのふれあい ・種花事業での地域の方との種植え ・交通安全指導での警察の方との交流 ・相愛高校の保育実習2年生、3年生との交流
11月	書道教室 ひよこランド お話の会 南船場ウェルカムデイ	・書道教室での専門の先生との交流 ・未就園児とのふれあい ・島之内図書館のボランティアによる絵本の読み聞かせ ・南船場会館にて、地域の方や近隣の保育園とのふれあい

12月	ひよこランド 人形劇鑑賞	・未就園児とのふれあい ・人形劇鑑賞での人形劇団の方とのふれあい
1月	ひよこランド マリンバコンサート	・未就園児とのふれあい ・マリンバコンサートでのマリンバの演奏家の方とのふれあい
2月	ひよこランド ふれあいディ (幼小交流)(5歳児) 生け花(4歳児)	・未就園児とのふれあい ・南小学校1年生との交流 ・生花での専門の先生や地域の方との交流
3月	一日体験入園	・次年度入園予定の未就園児とのふれあい

< 交流の内容 >

- 南船場ウェルカムディ(5月)では、地域の方に歌を聴いてもらったり、一緒にふれあい遊びをしたりしたことで、より身近な存在に感じることができた。
- 相愛高校との交流では、高校生に絵本を読んでもらったり、一緒に水遊びをしたりすることで、親しみをもって関わるることができた。
- 南中学生との交流では、2日間一緒に過ごし、一緒に七夕の飾りを飾ったり、弁当を食べたりする中で、親しみをもって関わるることができた。
- 太鼓指導(一回目)では、全学年が太鼓指導に参加することで、太鼓の先生に太鼓について教えてもらう嬉しさを感じた。
- ひよこランドでは、未就園児とリズム室や園庭で一緒に遊んだり、ダンスを踊ったりした。未就園児が幼稚園に来る日を楽しみにし、遊ぶ場所に案内したり、遊びに誘いかけたり、親しみをもって関わるることができた。
- 生け花では、生け花の先生に花の生け方を教えてもらうことで、教えてもらう嬉しさを感じた。また、地域の方に手伝ってもらったことで、親しみの気持ちをもつことができた。
- 小学校交流では、小学生の先生に校内を案内してもらったり、授業を参観させてもらったりしたことで、小学校の様子に興味・関心をもつことができた。小学校一年生との交流では、小学生が考えてくれた昔遊びを一緒にすることで、親しみの気持ちや一年生になる期待を高めることができた。

ふれあい遊びの実施

- 毎月全クラスで楽しめるダンスを計画し、全クラスで集まって踊る機会をつくった。
4月「よろしくね!」5月「こいのぼり体操」6月「ウキウキワクワク」7月「エビカニクス」
8・9月「めっちゃ元気体操」10月「ちきゅうのこども」11月「どんぐりみつけたよドン」
12月「ジングルベル」2月「ぼっかぼかポルカ」など
- 毎月の誕生会で保護者と誕生児と一緒に遊べるような活動を取り入れた。
クラスでも子ども同士で楽しんだ。
4月「よろしくね」5月「おはようジャンプ」6月「せんたく」7月「きゅうりができた」8月「だるまさんが」
9月「ゆびにんぼう」10月「もみもみもみじ」11月「どんぐりはっけんたい」12月「ジングルベル」
1月「げんきタッチ!」2月「にぎりぱっちり」3月「ほっぺタッチゲーム」
- 土曜参観で保護者と一緒に体を動かして遊べるような活動を取り入れた。
3歳児「トントンパチパチ」「かぜがよんでいる」
4歳児「フープで遊ぼう」
5歳児「カードめくりゲーム」
- 運動会でふれあい競技を計画し、保護者と一緒に遊ぶ活動を取り入れた。

3歳児「電車サーキット」

4歳児「ボールで遊ぼう」

5歳児「ダンシング玉入れ」

- 生活発表会で3クラス一緒に歌を歌ったり、保護者と一緒にリズム遊びをしたりする活動を取り入れた。「あたま・かた・ひざ・ぽん」「ともだちできちゃった(保護者とのリズムのかけ合い)」

いろいろな文化に親しみがもてるような保育内容の工夫

- いろいろな国の挨拶に親しみをもつ。

- ・誕生会で園長先生からいろいろな国の挨拶について話を聞いた。
- ・5歳児では、昨年度から親しんでいる「きょうも元気！」を歌い、南船場ウェルカムデイでは地域の方に披露した。園生活の中でも、歌詞に出てくるいろいろな国の挨拶の言葉を使って外国にルーツのある友達に挨拶をする姿が見られた。
- ・4歳児では、誕生会でいろいろな国の挨拶を覚えてもらい、「きょうも元気！」の歌の歌詞にいろいろな国の挨拶を取り入れ、歌うことを楽しんだ。
- ・3歳児では、外国につながるのある子どもに対して、クラス全体の場でもその子どもが分かる言語で話しかけたり、簡単なコミュニケーションをとったりした。お休み調べで「Hello！」と返答する友達を見て、周りの子どもも真似する姿や、簡単な中国語を覚える姿が見られた。経験を重ねる中で、外国につながるのある子どもも日本語で挨拶をしよう、コミュニケーションをとろうとする姿が見られた。それぞれの言語を大切にすることで、お互いの言語に関心をもつ姿につながった。

- 大阪万博について知る。

- ・大阪関西万博が開催され、いろいろな国の文化が紹介されていることを知らせた。
- ・大阪関西万博についての新聞記事を全クラスが見えるところに掲示することで、万博を通していろいろな国に興味や関心をもてるようにした。

- 様々な国の言語を知る。

- ・園児につながるのある国の言語を歌「あたま・かた・ひざ・ぽん」の歌詞に取り入れ、発表会で保護者に聞いてもらう機会をもった。

<取組内容①のまとめ>

- ・大阪万博という今年度ならではの行事を取り入れ、様々な国の文化に興味や関心をもてるように保育を工夫することができた。また、「あたま・かた・ひざ・ぽん」の手遊びを日本語、中国語、韓国語、タガログ語、モンゴル語、英語という園児につながるのある国の言語で歌うことにより、いろいろな国の言葉に親しむことができた。
- ・学校や地域の人々との交流について、年間計画を立て、計画的に実施することで年間を通して様々な人との交流をもつことができた。相愛高校の交流や、未就園児活動、南船場ウェルカムデイ、太鼓指導など、年数回交流する機会を設けた活動では、1回目よりも2回目以降の方がより親しみをもって関わったり、活動に期待をもって取り組んだりする姿が見られるようになった。また、4歳児ならではの交流活動や5歳児ならではの交流活動において、他クラスも交流する様子を見学することによって、次年度以降への交流へ期待をもつ姿が見られた。次年度も計画的に交流を進めるとともに、より親しみをもって関わることのできる内容を工夫していきたい。

取組内容②

体を動かして遊ぶ楽しさを感じる環境や遊びの内容の工夫

【3歳児】

- ・4月、園庭で行っていたサーキット遊びを室内でも楽しめるように、音が出るマットやフラットフープなどを用意した。自分たちで並べて楽しむ姿が見られた。

- ・5月、こいのぼりを身近に感じて遊ぶ姿が見られたため、手に持って走ると空気で膨らんで大きくなるカラーポリ袋のこいのぼりを用意した。園庭やグラウンドで存分に走る姿につながった。
- ・6月、子どもたちが好きな曲に合わせてダンスを楽しむ姿が見られた。マイクやヘッドセット、ポンポンを用意したことで、よりなりきって、音楽を楽しみながらダンスする姿が見られるようになった。
- ・7月、ピアノに合わせていろいろな生き物になって遊ぶことを楽しんでいたため、プール遊びでもいろいろな動物になって遊べるようにした。また、タヌキの耳の冠を用意し、動物が出てくるダンスをより楽しめるようにした。
- ・8・9月、パフリングを用意し、並べたり体のいろいろなところに乗せてバランスをとったりして遊べるようにした。運動会では、共通のイメージでパフリングを使った遊びを行い、いろいろな動きを経験できるようにした。
- ・10・11月、フラッグや布玉など、他クラスの運動会の遊びを見たり、運動遊具を貸してもらって一緒に楽しんだりする機会をもった。
- ・1月、絵本「三びきのこぶた」に興味をもち、何役をやっているのか分かりやすいように役の冠を子どもと一緒に作成した。絵本への関心が高まり、役になって体を動かして遊ぶようになった。(オオカミが追いかける、滑り台を煙突に見立てて降りる など)
- ・2月、節分遊びをしたことで、鬼への関心が高まったため、子どもたちがつけられるようにした鬼のお面や、鬼のお面をつけた籠を用意した。鬼遊びをしたり、鬼のお面がついた籠にカラーボールや布玉を投げ入れたりして、繰り返し楽しむことができた。

【4歳児】

- ・気候のよい4、5月に継続的にグラウンドに出かけ、広い場所で思い切り体を動かして遊べるようにした。グラウンドでは、一本橋やはしご、フープなどを組み合わせてサーキットをつくり、バランスをとる、両足で跳ぶ、片足で跳ぶなど多様な体の動きを経験できるようにした。
- ・5月、こいのぼりをつくった際には、グラウンドの土山から駆け下り、グラウンドを回って土山を登って帰ってくるという遊びをした。土山から駆け下りる際も転ぶ様子は見られず、駆け下りる、登る遊びを繰り返し楽しむことができた。
- ・7月、プール遊びでは、水の中で存分に体を動かして遊ぶことができるように、水のかけ合いをしたり、いろいろな動物になって泳いだりする活動を取り入れた。水がかかるとも楽しめるようになることで、存分に体を動かして遊ぶようになった。
- ・9月、10月、大好きなクワガタムシやカブトムシになって、ジャングルサーキット(一本橋、トンネル、高い場所からのジャンプ、連続ジャンプ)に繰り返し取り組むことで、多様な体の動きを経験できるようにした。繰り返し取り組むことで、より高くジャンプしたり、横向きで一本橋を渡ったり、挑戦する姿が見られた。
- ・1月、縄を購入し遊びに取り入れた。縄の様々な遊び方を楽しむことで、縄遊びに興味をもち、挑戦する姿が見られた。

【5歳児】

- ・カードめくりやリレー遊びなど、クラスのみんなで体を動かして遊ぶ機会をたくさんもった。ルールを守って遊ぶ楽しさを味わったり、友達と自分たちでも遊びを進めようとしたりする姿につながった。
- ・春にはグラウンドで遊ぶ機会もたくさんもち、ホッピングやペダルローラー、一本歯下駄、長縄などの運動遊具に挑戦したり、広い場所で鬼遊びをしたりした。同じ遊具や遊びの場を園庭にも用意することで、継続して遊びに取り組めるようにした。
- ・プール遊びでは、水の中でダンスをしたり、みんなで歩き回って流れをつくったりし、水の浮力や抵抗、流れなどを全身で感じながら存分に楽しめるような活動を工夫した。
- ・夏休み明け、朝の涼しい時間を活用して、様々な運動遊具(一本歯下駄、ペダルローラー、短縄、鉄棒)に取り組む「チャレンジタイム」をもった。友達が頑張る姿や新しいこと、難しいことにチャレンジする姿を知らせたことで、励まし合ったり、「自分もやってみよう」と意欲をもったりしながら取り組むことができた。また、その日にチャレンジしたことを「チャレンジ名人カード」に書き、シー

ルを貼るようにしたことで、継続して取り組んだり、より難しいことにチャレンジしようとしたりする姿につながった。

- ・クラス全体で繰り返しリレー遊びを楽しんだ。運動会に向けて、チームを決めて取り組む中で、「チームで勝ちたい」という気持ちが芽生え、走り方やバトンパスの仕方などを友達と話し合っ工夫しながら、取り組む姿につながった。また、勝ったり負けたりする経験が「もう一回したい」という気持ちにつながった。
- ・運動会後も、運動遊具に継続して取り組んだり、自分たちで誘い合っリレーをしたりする姿が見られた。継続して遊んだことで、自信につながり、年下の友達にルールや遊び方を教える姿も見られた。
- ・園庭やグラウンドで、様々な鬼遊び(氷鬼、バナナ鬼、色鬼、かわり鬼 など)を楽しんだ。ルールの共有が上手い出来ない場面もあったが、その都度集まっ話し合ったり、友達が困っている姿を知らせたりしながら遊ぶことで、解決しながら遊びを進めていく姿が見られた。

<取組内容②のまとめ>

- ・体を動かして遊ぶ楽しさを感じる環境や遊びについて、各クラスの実態や興味・関心に合わせて保育内容を工夫したり、環境を見直したりしたことで、十分に体を動かして遊ぶ姿が見られた。また、遊びを継続させる意識をもって教師が関わることで、運動会の活動や行事の遊び(こいのぼりや豆まき など)もそのとき限りにしてしまうのではなく、更に工夫して発展させたり、異年齢で交流しながら体を動かしたりする姿につながっていった。今後も、子どもの姿をしっかり見取り、子どもの実態に合わせて遊びを工夫していきたい。

取組内容③

栽培活動

<1学期の計画>

月	内容
5月	○保護者と子どもで夏野菜の苗植え(個人の鉢で栽培) ・ミニトマト・ピーマン・オクラ・ナス ○夏野菜の苗植え(畑) ・長ナス・中長ナス・米ナス・トウモロコシ・ピーマン・ミニトマト ○花の苗・種植え(プランターやポッド) ・サルビア・ペチュニア・マリーゴールド・アサガオ・ヒマワリ・フウセンカズラ ・センニチコウ
6月	○保護者と子どもで夏野菜の支柱立て・肥料やり ○ジャガイモの収穫・持ち帰り ○サツマイモの苗植え ○キンセンカの種蒔き(種花事業)
7月	○夏野菜の収穫・持ち帰り

<1学期の取組内容・幼児の姿>

- 夏野菜の個人栽培は、水やりや支柱立て、肥料やりなど、保護者と子どもで取り組んだ。登園時に水やりを促したり、わき芽摘みなどの野菜の世話の仕方を保護者に向けて掲示したりし、継続して世話ができるようにした。子どもは、毎日の水やりを通して、野菜の生長の様子に興味をもって観察したり、生長や収穫の喜びを感じたりしていた。
- ジャガイモの収穫では、様々な形・大きさのジャガイモを見たり、触ったりすることを喜んでいた。収穫後、5歳児は数量にも関心をもち、並べたり、数を数えたりした。持ち帰りの際には、5歳児が

ジャガイモ屋さんになり、「みんなが同じくらいの量を持って帰れるように」と、大きさに分けたり、持ち帰る数を相談したりしながらお店の準備をし、年下の友達に渡していた。

- 夏野菜の収穫では、自分の手で収穫することで、重さや大きさ、形などを実感し、より収穫の喜びを感じる事ができた。

<2学期の計画>

月	内容
8・9月	○夏野菜の収穫・持ち帰り
10月	○保護者と子どもで冬野菜の苗植え(個人の鉢で栽培) ・スティックセニョール・水菜 ○ヒマワリの種の収穫
11月	○冬野菜の種まき ・ダイコン・ニンジン・ホウレンソウ ○保護者と子どもで冬野菜の肥料やり ○ザクロの収穫
12月	○チューリップの球根植え ○ユズの収穫・持ち帰り

<2学期の取組内容・幼児の姿>

- ヒマワリの種の収穫では、種の数を数えたり、たくさん並べたりし、数量にもふれることができた。
- 5歳児は、ザクロの収穫後、保育室に置き、色や形、匂いなどを実際に触りながら観察したり、墨や絵の具で表現したりすることを楽しんだ。
- 冬至の前にグラウンドのユズを収穫し、持ち帰った。収穫の際は、匂いを楽しむ姿が見られた。また、持ち帰る前には、冬至について知らせ、季節を感じられるようにした。

<3学期の計画>

月	内容
1月	○保護者と子どもで冬野菜の肥料やり ○花の苗植え(ノースポール・ビオラ)
2月	○大根収穫・持ち帰り ○ジャガイモ植え ○冬野菜の収穫・持ち帰り
3月	○冬野菜の収穫・持ち帰り

<3学期の取組内容・幼児の姿>

- 2学期末に植えたチューリップの芽が少しずつ伸びていることに気付き、その喜びを友達や教師と共有する姿が見られた。花が咲く時期を知らせることで、自身の進級・進学にも期待をもつ姿が見られた。
- 冬野菜の個人栽培では、継続的に世話ができるよう、登園時に水やりの声かけをしたり、収穫のタイミングを知らせたりしてきたことで、「もう収穫できそう」と、自身でも生長に気付く姿が見られた。
- 5歳児が畑の大根を収穫した。同時期に劇遊びを楽しんでいた『てんまのとらやん』のお話の中にも、大根引きをする場面があり、実体験することができた。場面を思い浮かべながら、踏ん張って力いっぱい大根を引き、収穫を喜ぶ姿があった。

身近な生き物との関わり

【3歳児】

○生き物コーナー

・生き物の絵本を飼育ケースと一緒に置いておき、気になったときに見やすいようにした。写真や絵から情報を得る姿から、幼虫が眠っているカゴには眠っている幼虫の絵を貼ったり、変態していくアオムシを飼っているときは、変態していくごとに写真で撮ってカゴの近くに掲示し、以前の姿と比べられるようにした。底が浅いコンテナを用意し、カゴから出してみんなで観察しやすいようにした。

○アオムシの飼育

・サナギからチョウになったアオムシに感動し、七夕の願い事で「チョウチョになりたい」と言ったり、はらぺこあおむしの絵本を見返したりする姿が見られた。

○カブトムシ・クワガタムシの飼育

・毎日世話を欠かさず行き、ゼリーをあげたり、掃除をしたりした。教師が手に持ったり、棒を這わせたりするのを見て、少しずつ近くで見るようになり、カップを介して持とうとしたり、自分の手で掴んだりする姿が見られるようになった。

【4歳児】

○ダンゴムシとの触れ合い

・グラウンドでダンゴムシを見つけ、クラスで育てた。グラウンドに行くときにダンゴムシの飼育ケースを持って行き、草や葉っぱを入れ替えたり、草でダンゴムシが遊べる場所をつくって触れ合ったりすることができた。

○アオムシの飼育

・グラウンドで見つけたアオムシを育てた。グラウンドにケースを持って行き、ごはんとする葉っぱの入れ替えを行うことで、アオムシの変化に親しみをもった。アオムシがチョウになるとチョウを飼育したいという思いをもった。毎日ごはんとする花を入れ替え、世話をした。しかし世話をしていたチョウが弱ってしまうと、自分たちでは世話ができないことに気付いた。その後、サナギからチョウになると、弱ってしまうからすぐに外に逃がしてあげようと話す姿が見られ、虫の命を大切にすることにつながった。

○カブトムシ・クワガタムシとの触れ合い

・昨年度から飼育していたカブトムシの幼虫の世話を4歳児になっても続けた。土を入れ替え、出てきた幼虫の大きさに驚き優しくなでて触れ合う姿が見られた。飼育ケースの前にカブトムシの成長過程や気を付けることを掲示しておくことで、サナギになったら動かさないことを子ども同士で伝え合い、大切に育てる姿が見られた。7月成虫になると、他クラスにも伝えて喜んだ。

・毎日触れ合う中で虫への親しみをもち、保育室で見つけた虫も大切に指で掴み園庭へ逃がす姿が見られるようになった。

○カブトムシの幼虫との触れ合い

・5歳児からカブトムシの幼虫をもらい、保育室で飼育した。土の中にもぐっている幼虫に思いを寄せ、大きく成長することに期待をもった。

【5歳児】

○ザリガニの飼育

・昨年度の5歳児から、ザリガニの世話を引き継いだ。当番活動の中に、餌やりの仕事を取り入れたり、よく目に入る場所にケースを置いておいたりし、関心が継続するようにした。餌やりや観察をする中で、ケースや水の汚れに気が付くと、自ら掃除をしようとするなど、大切にしようとする気持ちも育ってきた。

○アオムシやチョウの飼育

・グラウンドのユズの木でアオムシを見つけ、飼育をした。これまでの経験や図鑑から、世話の仕方を調べ、毎日変化や成長を見ることを楽しんでた。サナギからチョウになると、「ケースの中は狭いから逃がしてあげよう」「お花が好きだからお花の近くに飛ばせてあげよう」と、チョウを思いやる姿も見られた。

○カブトムシ・クワガタムシとの触れ合い

・昨年度から飼育していた幼虫がカブトムシになった。保護者の方にいただいたクワガタムシも加わり、ゼリーをあげて世話をしたり、背中を優しくなでたりして触れ合うことを楽しんでた。また、カブトムシとクワガタムシの体の形の違いにも気付き、じっくりと観察するようになった。

○カブトムシの幼虫との触れ合い

・保護者の方にカブトムシの幼虫をいただき、飼育した。土が乾いていることに気が付くと、霧吹きで湿らせたり、ケースから幼虫の姿が見えると、友達と共有し合ったりし、成長を大切に見守る姿が見られた。

<取組内容③のまとめ>

- ・栽培活動について、年間計画を立て実施することで、四季の変化や植物の生長を感じながら関わることができた。教師自身が動植物や季節の変化、様々な事象に対してアンテナをはっておき、教職員間で共有することで、タイミングよく収穫したり、遊びに生かしたりすることができた。ザリガニやカブトムシなどの身近な生き物との関わりについては、子どもの目に入りやすい場所に飼育ケースを置いたり、世話が必要なことに気付かせたりすることで、自ら関わったり、世話をしたりする姿が見られた。直接接触ったり、世話をしたりすることを通して、親しみや大切にしようとする気持ちが育まれた。今後も、自然との出会いや関わりを通して、子どもが様々なことに気付き、栽培活動や飼育を継続して行えるように計画を立て、実施していきたい。
- ・グラウンドの畑で野菜を栽培しているが、毎日の登降園時に目に入る園庭とは異なり、生長や変化に気付きにくく、栽培をしている意識も薄くなってしまっている。次年度は、グラウンドの畑に植えたものと同じものを園庭にも植え、毎日見ることができるようにするなど、子どもが日々生長や変化を身近に感じられるようにしていきたい。

次年度の改善点

<取組内容③について>

- ・グラウンドの畑で栽培しているものにも意識を向け、継続して関わりをもち、より大切にする気持ちをもって栽培活動ができるように工夫する。

大阪市立南幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>「教職員の専門的な知識を高め、資質向上を図る」ために、以下の目標の達成をめざし保護者アンケートにおいて、次の項目について肯定的な回答（そう思う、ややそう思う）を85%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は、幼児期に大切な様々な体験ができる保育を行っている。 ・子どもは、安心感をもって生活し、幼稚園が好きである。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【7-2、教員の資質向上・人材確保】</p> <p>専門的な知識を深め、幼児一人一人を大切に、豊かな体験となる教育実践を行う。 (人材の確保の達成としなやかな組織づくり)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会に参加し、教職員間で情報交流を行う。 ・各クラス年1回、園内研修会を行う。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><保護者アンケート結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は、幼児期に大切な様々な体験ができる 保育を行っている・・・・・・肯定的回答 93%（目標 85%） ・子どもは、安心感をもって生活し、幼稚園が好きである・・・・・・肯定的回答 93%（目標 85%） <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター研修（4/25） 特別支援教育コーディネーターの役割を学んだ。 ・インクルーシブ教育研修（5/29） 発達気になる子どものアセスメントと指導を学んだ。 ・日吉幼稚園研究保育（6/18） 3・4・5歳児がそれぞれに関わりながら、夢中になって遊ぶ姿を参観し、分科会・全体会をもった。分科会では、夢中になって遊ぶ姿が、どのような育ちにつながっているのか、他園の教職員と話し合った。 ・中央区食育関係者連絡会（6/30） 各施設の食育活動の取組や偏食やアレルギー対応など課題を情報共有した。学んだことを自園の食育活動に取り入れていけるよう考えた。 ・大阪市養護教員会全体会（7/11） 学校事故、不登校、いじめ、虐待等の学校が抱える課題と教員・養護教諭の役割について

て学んだ。初期対応や危機管理の重要性、対応のシステム化の必要性について教職員間で情報共有をした。

・専門研修（7／30）

ドキュメンテーションについて、作成の仕方や活用の仕方を学んだ。1つの遊びや1人の幼児といった、ミクロな視点で遊びや幼児の姿を振り返りながら作成することで、育ちや遊びの面白さが生き生きと伝わるということ学んだ。

・人権教育研修（7／31）

同和・人権教育について学び、その中でどのような子どもを育てたいか、どのような力をつけたいか、いけないのかを考える機会となった。自分の強みを知ることで子どもと関わるときの特徴などを学んだ。

・学校保健講習会（8／7）

子どもの近視について学んだ。幼児期の視力低下の早期発見、早期治療により将来の重篤な眼疾患を予防することにつながるため、検診や事後措置の重要性を再確認した。

・特別支援担当者必修研修①②（8／7）

特別支援の教育課程と自立活動について①、自立活動の指導の実践について②を学んだ。

・人権教育研修会（8／19）

「一人一人のもちあじが活きる教室づくり」について学んだ。

・幼稚園特別支援教育研修（8／21）

幼稚園における多様性が認め合えるインクルーシブ保育について、また、発達の理解と支援を学んだ。

・粉浜幼稚園研究保育（9／17）

4、5歳児が、忍者のイメージを広げながら様々な遊びに夢中になっている姿を参観し、分科会・全体会に参加した。全体の姿と合わせて、個人の姿にも焦点を当てて遊びの様子を見ることで、より深く育ちを見取ることを学んだ。

・3ブロック講演会（10／31）

小学校のもと校長先生のご自身の経験から話を聞き、小学校教育と幼児教育の接続の在り方について学んだ。

・学校等における生命の安全教育普及展開事業 授業研究会（中道小学校）（1／28）

小学校2年生「自分の体の守り方について知る」公開授業に参加した。また、子どもの性問題行動の理解と支援に関する講演会を聞き、健全で安全な環境を提供することが子どもの発達のために不可欠であることを学んだ。

・食育ネットワーク会議（1／29）

子どもが食べることに興味関心をもてるような園での活動について学んだ。また、好き嫌が多い子どもへの対応についてグループで話し合い、情報共有した。

【園内研修会】

- ・園内研修について年間計画を立て、実施した。

日にち・学年	研修内容
6月13日 全学年	<p><新任教員研修></p> <p>令和7年度採用の新任教員研修会の研修園となった。水遊び・泥遊びの保育の実施、絵の具の実技研修、園長講話、協議を計画し、実施した。研修に向けて教職員全体で環境や援助の振り返りを日々行い、保育について話し合う機会となった。</p>
9月4日 3歳児ばら組	<p><園内研修></p> <p>運動会に向けての取組として、体を使った表現遊びの保育を行った。教職員全体で振り返りを行い、幼児の姿や育ちを話し合ったことで、今後の保育の質の向上につながる機会となった。</p>
10月21日 4歳児もも組	<p><園内研修></p> <p>運動会で5歳児が行った玉入れへの興味を捉え活動に取り入れた。布玉の遊び方を自分で考えたり、玉入れを行ったりした。布玉でいろいろな遊びができることや運動会の活動をその後の遊びにどのように取り入れていくかなどを話し合うことで、保育の質の向上につながる機会となった。</p>
11月6日 3歳児ばら組	<p><園内研修></p> <p>素材に関心をもっている姿から、素材を使ったスタンプ遊びを行った。丁寧にじっくり取り組む姿や、形を組み合わせる楽しむ姿が見られた。使用する素材、絵の具、画用紙の色など、教材研究ができた。また、年齢に合わせた話の聞き方について、学ぶ機会となった。</p>
12月22日 3歳児ばら組	<p><指導要請></p> <p>絵本のお話からごっこ遊びを行った。教材の安全な出し方や、劇遊びへ展開していくにあたっての指導の在り方を学んだ。</p>
1月16日 全学年保健指導	<p><園内研修></p> <p>インフルエンザの流行を危惧し、かぜ予防に関する保健指導を行った。教職員全体で話し合い、幼児への問いかけや効果的な視覚教材の活用、担任との連携の重要性などについて学ぶ機会となった。</p>
1月22日 5歳児すみれ組	<p><園内研修></p> <p>絵本の場面から様々な表現を試したり、言葉のやりとりをしたりして遊んだ。協議会では、幼児の表現を引き出す投げかけ方や活動の進め方などについて話し合い、自身の保育を振り返る機会となった。</p>

<取組内容①のまとめ>

- ・様々な研修会に参加することで、専門的な知識を深めることができた。また、園内研修会を計画的に実施した。保育後の協議会でねらいに応じた幼児の姿、教師の教育的意図をもった働きかけを話し合ったことで、自身では気付かなかった幼児の姿を知ったり、新たな教育的意図をもった働きかけを学んだり、自身の保育の質の向上につなげることができた。

次年度への改善点

<取組内容①について>

- ・次年度も様々な研修会に参加し、その内容を教職員間で共有したり、園内研修を計画的に進めたりすることで、専門的な知識を深め一人一人を大切にしたい教育実践を行う。

